



学校での 防災活動 紹介

子供たちと考える
学校と地域の防災について

2022.3.16
災害・危機対応マネージャー
瀬山 淳、大宮 佐知子、青木 正繁

概要

① 小学校での親子防災学習

- ・ 阿南市立横見小学校全学年の親子90名が対象
- ・ 参観日の授業時間中に**避難シミュレーションゲーム**を実施
- ・ 三密にならない感染防止対策実施

② 中高生への防災講座

- ・ 徳島県立城ノ内中等教育学校/高等学校の防災クラブ12名が対象
- ・ **地震発生後の初動対応演習**を中心に90分×3回の講座を実施
- ・ 感染防止対策として一部オンラインで実施

①小学校での親子防災学習

<目的>

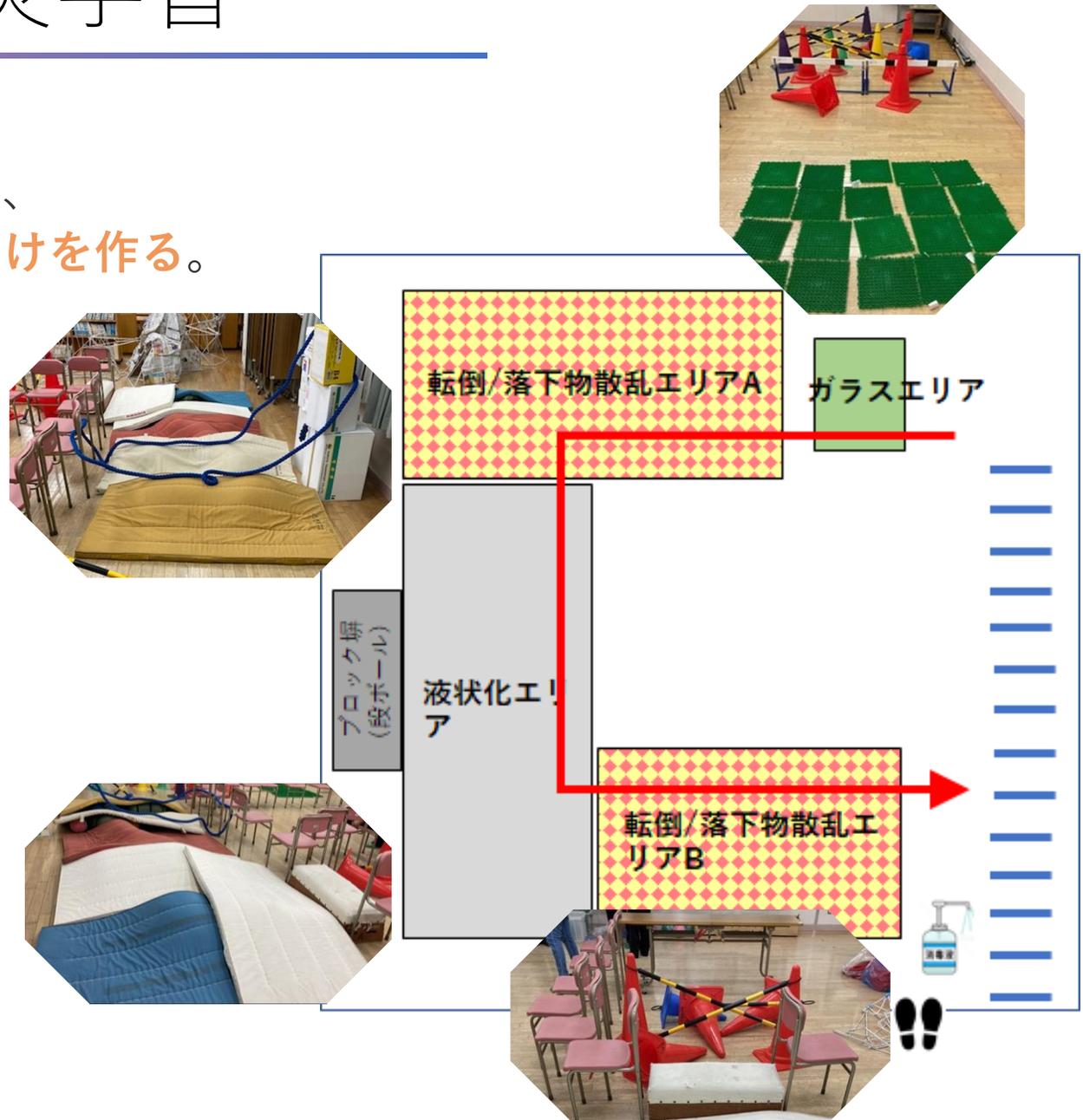
地震、津波発生時の避難を親子で体験し、
どのような準備が必要か**話し合うきっかけを作る。**

<避難シミュレーションゲーム>

- ・ 震度6強の地震が発生
- ・ ガラス飛散、ブロック塀倒壊、
液状化などをイメージしたコース作り

<感染防止対策>

- ・ 3コース作って、学年ごとに実施
- ・ 手指消毒、換気、待機中の間隔
確保など



①小学校での親子防災学習

<今回のこだわりポイント>

子供たちに災害時の**避難をイメージ**してもらいつつ、親子で**楽しんでもらう**。

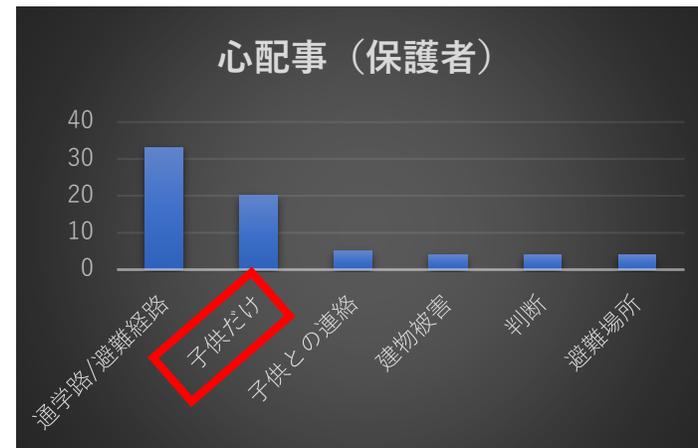
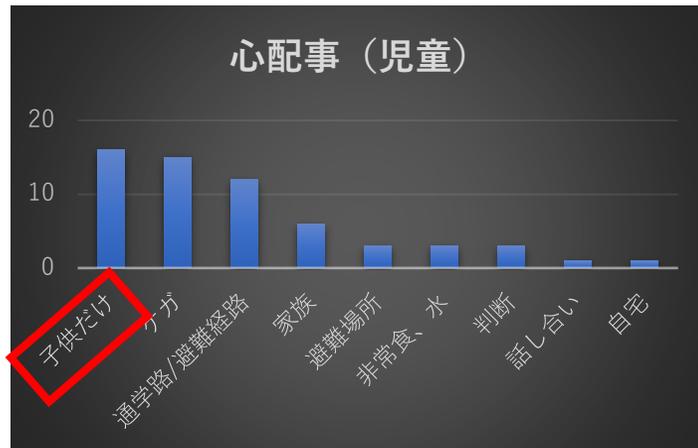
- 地震被害の写真、具体的な被災想定（日曜の朝、自宅のキッチンで被災など）について説明することでイメージ作り。
- 津波が迫っているという想定で**タイムを計測**緊迫感を出すと同時に、1組あたりの時間短縮にもなった。



①小学校での親子防災学習

<振り返り、アンケート>

- ・子供たちには楽しく体験してもらえたが・・・
低学年：避難時の危険を**充分認識できていない**子供が多い
高学年：避難時の危険を**認識できている**子供が多い
- ・その他のアンケート項目で、親子共に**子供だけの時間帯**に被災することを心配していること、この地域では**河川の氾濫**に関心が高いことがわかった。



- ・今回親子が一緒に体験したことで、**話し合うきっかけ作り**になり、お互いの**心配事を共有**できて、次につながるイベントになった。



+

○

② 中高生への防災講座

< 目的 >

学校の防災について**生徒主体で考え**、防災クラブの活動につなげる。

< 防災講座 1 : 学校の防災対策の再確認 >

○Zoom会議で実施

○対策できていること

- ・耐震化、基本的な災害対応用備品の確保
- ・非常食、飲料水の備蓄（防災クラブが定期点検）
- ・避難経路図の掲示（防災クラブが定期更新）
- ・避難訓練、炊き出し訓練

○今回の確認での気づき

- ・生徒は非常食の場所は知っているが、救助用具など他の防災備品の保管場所は知らない。
- ・災害時の先生の役割分担や活動内容を知らない。
- ・浸水想定があるのに救護備品は1階の保健室にしかない。



生徒だけでは**行動できない**状態であり、学校側からの**情報提供もされていない**現状。

② 中高生への防災講座

< 防災講座2：地震発生後の初動対応演習 >

○感染リスクは低いと判断して対面で実施

○演習のこだわりポイント

- ・音楽や制限時間で臨場感を出した。
- ・場面を、これまで訓練経験のない **放課後** に設定。
- ・先生の指示ではなく生徒が自分たちで考えて行動する。

○結果

- ・事前に確認した学校の防災対策をもとに、**できる範囲で行動を決めることができた。**
- ・放課後の点呼、人の救助、学校外から避難してくる人やパニックになって騒ぐ人の対応などに苦心していた。



地震速報!

緊急地震速報 予測震度7



避難場所 (校庭)

- ・校庭に出ると、先生、生徒が集まって話をしたり、スマホを見たりしている。
- ・クラスで集まっている人もいれば、部活で集まっている人もいる。



Task4. (4分)
4-1.この後どうなる?
4-2.これから何をする?

Task5. (8分)
どうする?
5-1.数分後、生徒の一人がクラスごとに集まって点呼しようと呼びかけた。しかし、どのクラスも数名不在で、帰宅したかどうか分からない。
5-2.ケガ人が2人いるから保健室に運ぶのを手伝って!と叫んでいる生徒がいる。
ガラスが割れ、照明やプロジェクターが落ちそうになっていたと生徒が話している。一部の生徒が、津波が来るので早く校舎へ避難しようと移動を始めた。

2時間後 (教室)

- ・地震発生から2時間が経過。津波は2階に少し入っているらしい。雨が降り始めた。
- ・日は沈み、停電のため教室は暗く、わずかな懐中電灯とスマホの明かりのみ。
- ・避難してきた子供が不安で泣き出している。

Task8. (4分)
8-1.この後どうなる?
8-2.これから何をする?

Task9. (6分)
どうする?
9-1.トイレを利用する人が増えてきたが、水を流せないで、一部のトイレが使えない状態になっていると話している。
9-2.同じ教室にいる生徒が体調不良を訴えている。
一部の生徒が、非常食を配ろうと話している。



② 中高生への防災講座

< 防災講座3：防災クラブの活動を考える >

○ 演習後のアンケート結果報告

- ・ 演習は「楽しかった」が、災害時の対応力は「不十分」と感じた生徒が多く、演習後、全ての生徒が「学校防災に関わりたい」、「知識をつけたい」と回答。

○ 防災クラブの今後の活動について

- ・ 演習での体験をもとに生徒全員で話し合い、来年度のテーマとして3つ挙げた。

(1) 救護方法の習得

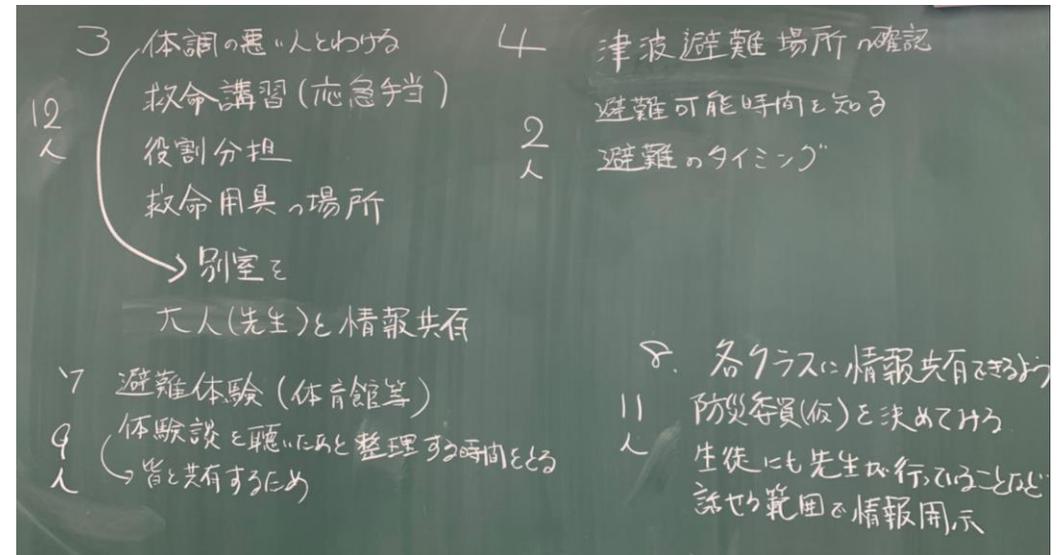
ケガ人を助けたいという思いや、保健室が使えない、救護備品の保管場所を知らないという課題も含めて取り組みたい。

(2) 防災クラブからの情報発信

防災クラブの取り組みを伝えることで、学校全体のレベルアップを図る。

(3) 校内での避難体験

演習同様、実際に体験することで自分たちの課題として認識する。



子供たちと考える学校と地域の防災

今回のような活動を継続することで、次のように学校だけでなく地域の防災に貢献できると考えている。

(1) 若い世代の参加

- ・ 今回のように親子で参加して楽しく防災を学べるようなイベントを行えば、若い世代の参加も増えて、**子供たちと一緒に**地域の防災について考えられる。
- ・ 子供たちを守れる地域にしていくことで、高齢者なども守りやすい地域にすることができる。

(2) 継続的な防災活動

- ・ 学校主体で計画的に行う防災活動に地域を巻き込んでいくことで、地域の防災活動を継続的に行うことができる。
- ・ **子供たちが地域の防災に関わる**ことで、将来的に災害に強いまちづくりにつなげることができる。



これからも継続して活動していきます。

ご清聴ありがとうございました。

